



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年06月03日 第1170号「週刊五十嵐レポート」

軸

ランチェスター経営のテキストには、良き社長になるためには、社長の役目を正しく認識し、その役目のレベルを高める必要がある。もし自分の役目を間違えて認識して、役目のレベルを高めることをしていなければ、ダメ社長になるという。その役目とは戦略と戦術の違いを理解し、社長は常に戦略のレベルを上げていくことであると。

戦略は2通りある。強い会社がやる戦略と弱い会社がとる戦略。この2つは全く違う。多くの小さな会社の社長はこの区別がつかない。ある会社の社長のコメント、「業績の良い店舗は、周りに競争相手が少なく、また自社の独自性が出て価格は比較的高い商品を扱っている店舗が良い。逆に業績が思わしくない店舗は、競争相手と同様な品ぞろえで埋没してしまっている」と。

業績が良い店舗は、他社との違いを明確にして差別化ができています。価格も優位性を保っている。思わしくない店舗は、大手と同様なことをしているため、違いが出せていない。独自性を発揮することや差別化することは勇気がある。大手・他社と同じことをするのは安心で正しいと思われがち。顧客から見たら、違いがないので強い大手・他社に流れる。経営を学んでいない社長は自分の戦略が間違っていると気づかない。外部要因である景気が悪いと思って、対策が打てないでいる。

売れている店を見に行き行って経営の参考にすることがある。このときに経営戦略について基準を持っている社長と基準をもっていない社長には違いが出てくる。基準を持っている社長は、売れている店の本質を見抜こうとする。それを抽象化する。自社に持ち帰って、自社に応用できるのは何か具体化していく。基準のない社長は、売れている店の見える部分をそのまま自社でマネをしてみる。根付かないままいつの間にか消えていく。

経営は形がなくてつかみどころがない。会社は粗利益で生きている。その粗利益はお客様からしか生まれない。お客様から支持されるのは何か。競争相手が多数いる中で選ばれるのは何か。他社のマネではない。自社の強み・独自性が評価される。経営戦略の軸が大事。

ちょっと
気になる出来事

5月21日付日経新聞、「私見草見」は「外国人材に選んでもらうために」。日本は未曾有の人材不足時代に突入り、外国人材の就労が不可欠になった。政府は外国人材が就労しやすいように様々な施策を打ち出している。「外国人材から日本は選ばれる国なのだろうか」と問いかけている。外国人材は、経済状況の変化、特に円安の影響で収入を主目的とした日本での就労希望者が減少傾向にあるという。しかし、生活における安全性など日本の魅力は健在。外国人材が「日本の企業で働きたい」と感じ、選んでもらえるよう、受け入れる企業は労働環境の整備やサポートの強化に取り組む必要がある。社内での教育の仕組みづくり。就業時間以外にも勉強会を開き、日本語と技術習得をサポートする仕組みをつくる。就業後には座学の機会を設け、企業が扱う商品の基礎知識や業界、業務に関する専門知識を教える。手間と時間をかけて教育していく。日本人材と同様な教育の仕組みプラス日本語教育。これができる小さな会社は10年後トップランナーになれる。



一口メモ
知識

易(か)わる

生生(せいせい)これを易(えき)という。

天地は無窮(むきゆう)の営みを続け、途切れることがない。またそこから万物が生じる。春夏秋冬は規則正しく巡り、冬が終われば、また新たな春がやってくる。同じ時は再び訪れることはない。生じるものは新たなものが生じる。このような窮(きわ)まりない変化を「易」という。我々人間も日々の変化あってこそ、生き生きと生きていける。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

